

<卒業論文概要>

地域に根差した公民館報の持つ役割と可能性 —笠懸公民タイムスを事例に—

三枝 巧*

1. 研究の目的・課題・方法

本研究は、編集への住民参加などから公民館報のモデルとされてきた笠懸公民タイムスに着目し、その歴史や記事、出来事について調査することで、公民館報の役割を明らかにするとともに、公民館報の可能性について考察することを目的とするものである。

研究の方法としては、第一に、公民館報そのものの役割や成り立ちについて先行研究や文献をもとに整理する。第二に、笠懸公民タイムスの歴史を調査し、創刊から今日に至る展開をまとめ、扱われた主要な記事について調査する。第三に、笠懸公民タイムスの記事のうち、主要なトピックについて扱った記事について内容を分析することで、地域に根差した公民館報が果たしてきた役割を明らかにしながら、公民館報の持つ可能性について考察していく。

2. 論文の構成

序章 問題の所在と研究の目的・方法

第一節 問題の所在

第二節 先行研究の検討と研究の目的

第三節 研究目的と方法

第一章 公民館報の歴史とその性格の整理

第一節 公民館報の歴史

第二節 公民館報の性格

第二章 笠懸公民タイムスについての調査

第一節 笠懸公民タイムスの歴史

第二節 笠懸公民タイムスの主要記事

第三章 地域に根差した公民館報の持つ役割と可能性についての考察

第一節 笠懸公民タイムスの記事に見る地域に根差した公民館報の持つ役割

第二節 地域に根差した公民館報の持つ可能性

第三節 行政に対する批判的なまなざし

終章 本研究のまとめと課題

第一節 本研究のまとめ

第二節 今後検討されるべき課題

3. 本研究の概要

序章では、公民館報の発行が義務ではないことから公民館報を発行していない公民館やサークルの活動紹介のみに留まっている公民館報の存在を指摘し、本研究の目的を述べた。

第一章では、公民館報の成り立ちやその経緯についてまとめると共に、公民館報の性格について、性格が近似している市町村報と比較することでその性格を定義した。

第二章では、公民館報編集への住民参加などの点で公民館報のモデルとされてきた「笠懸公民タ

イムス」の歴史や主要記事についてまとめ、笠懸公民タイムスの源流には、地域をより良くしたいという人々の想いがあったこと、そして幾度とない廃刊の危機を地域住民からの圧倒的な支持や笠懸公民タイムスの紙面としての価値等によって乗り越えてきたことを明らかにした。

第三章では、「昭和の大合併」と「平成の大合併」に伴って2度起きた笠懸の合併問題に関する笠懸公民タイムスの記事に着目、合併の背景の解説や議会の合併問題に対する意見・動向等を公民館報に掲載することで、知識が十分でない住民に対して地域の問題について学習機会を提供すると共にその学習を促進し、地域の歴史を保存する役割を果たしたことを明らかにした。また、「昭和の大合併」の際に起きた笠懸公民タイムスに対する議会の反発に着目し、地域に根差した公民館報は住民自治を促進するための「学習」的側面を果たしてきたことを明らかにした。そして、地域に根差した公民館報には、今後公民館が求められていく「住民主体の地域づくり、持続可能な共生社会の構築に向けた幅広い取組の拠点となる施設」という役割を補強・補完する意義があることを示した。

終章では、本研究をまとめると共に改めて本研究の意義を示した。また、本研究の限界性を指摘し、それを今後の課題とした。

4. 主要参考文献

- 長澤成次 (2016) 『公民館はだれのもの 住民の学びを通して自治を築く公共空間』自治体研究社 森谷健
(2009) 『地域メディアの市民編集の研究-「笠懸公民タイムス」を事例として-』群馬大学社会情報学部。
笠懸公民タイムス編集委員会編 (1976) 『笠懸公民タイムス 縮刷版』笠懸村公民館。
笠懸村公民館創立30年記念史編集委員会編 (1979) 『公民館三十年のあゆみ』笠懸村公民館。
笠懸公民タイムス編集委員会編 (2005) 『笠懸公民タイムス 縮刷版第IV号 (401~500号)』笠懸町公民館。